



(様式2)

平成30年 3月 9日

京丹後市議会議長 様

会派名 新星会
氏名 金田 琮仁

調査・研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 平成30年2月 7日 (水)
- 2 場所 メルパルク京都 5階会議室
京都市下京区東塩小路町東洞院通七条下ル東塩小路町676番13
- 3 目的 行政の視点で財政における基礎的な知識を学ぶことで、議員としての知識や財政におけるポイントを学び、今後の議員活動に活かすことができる。
- 4 該当する政務活動費の使途項目
研修費
- 5 支出経費の内訳と金額
99,940円・・・資料1
- 6 参加議員名
金田琮仁、 中野正五、 櫻井祐策
- 7 調査・研究成果の概要、所見
研修報告書・・・資料2、

研修成果報告書 …… 資料、2

日 時 平成30年 2月 7日 (水) 第1講座 9:00～12:00
第2講座 13:00～16:00

場 所 京都市下京区東塩小路町東洞院通七条 メルパルク京都

1、研修の目的

行政の視点から財政における基礎的な知識を学ぶことで、議員としての知識や財政のポイントを学び、今後の議員活動に活かすことができる。

2、研修の内容

【 第一講座 】

◆予算について

1. 地方財務

(1)財務の意義

(2)財務の組織

2. 予算の種類・内容

(1)予算

(2)予算の原則

◆歳入・歳出、科目別予算のあらまし

(1)予算の内容

(2)予算の効力

(3)会計区分

◆役所の予算編成から決算まで（当初予算、補正予算、決算）

1. 予算の種類

2. 予算の編成・執行

(1)予算編成の過程

(2)予算の議決

(3)予算の公表

(4)予算の執行

3. 決算

- (1)決算の意義
- (2)決算の調整
- (3)決算の審査と認定
- (4)決算の公表
- (5)住民監査請求と住民訴訟
- (6)歳計余剰金の処分

◆事業の着眼点と事業の評価方法（決算の分析値財政健全化）

- (1)決算の分析と決算統計
- (2)財政状況を表す指標
- (3)健全化指標について
- (4)健全化基準について

◆地方公会計

1. 地方公会計制度について

- (1)地方公会計の意義
- (2)単式簿記と複式簿記
- (3)現金主義会計と発生主義会計
- (4)地方公共団体と民間企業の会計

2. 固定資産台帳について

- (1)固定資産台帳とは
- (2)固定資産台帳の必要性

3. 財務書類の活用について

- (1)財務書類等の活用について

◆事業の評価方法のポイント



【 第2講座 】

◆地方交付税制度の解説

1. 地方財政計画とは
2. 地方交付税とは
 - (1)地方交付税の性格
 - (2)地方交付税の総額
 - (3)地方交付税の種類
 - (4)普通交付税の額の決定
3. 普通交付税の算定
 - (1)基準財政需要額の算定
 - (2)基準財政収入額の算定

◆臨時財政対策債のカラクリと議会答弁の真実

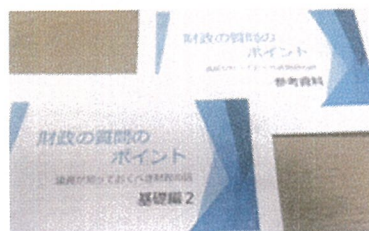
1. 臨時財政対策債とは

◆地方債

1. 地方債の役割
 - (1)主な役割
2. 地方債の法制度
 - (1)地方債を起こすことができる地方団体
 - (2)地方債が起こすことができる経費
3. 地方債協議制度
4. 地方債の資金と形態
 - (1)地方債の資金
 - (2)地方債の形態
 - (3)資金区分の振替要請
5. 地方債の年間スケジュール

◆補助事業に対する交付税措置

◆予算化されやすい予算要望とは



3、所見

地方行政における財政運営は厳しいといわれている。その背景には、人やモノも全てが東京へ集中していることである。地方から都会へ人が流出している中、国や府との連携を図りながら地域経済の安定を図ることが非常に重要になっている。それに総じて、行政は市民サービスの向上も求められているため、自治体は歳入・歳出のバランスや、中長期的な行政の在り方を如何にしっかりと示すかが問われている。今回、行政側の目線で基礎的な知識を学びながら、財政を見る上で押さえておくべき様々なポイントを学んだ。

第1講座では、市の財政状況を把握するためには予算編成方針を見ることが大切である。これは各部局とも次年度行いたい事業を上げてくるため、各部局の本音がわかり、それに対して市のスタンスを知ることができるため、チェックすべき重要な点である。



講師が強調したのは、自分たちの市が本当に財政状況が厳しいのか、客観的に見る必要がある、という点。把握・分析の基本は「比較すること」であり、他の類似団体の決算カードと見比べることから、市の中長期の財政計画を参照にし、市の考えを聞くことが基礎的なことであるし、市の財政に大きく関わるため、今後引き続き注視していくべき観点であり、基本的な施策や予算の現状を把握することが重要だと認識できた。予算化については、なぜその予算が付いたのか、しっかりとしたプロセスに基づいて知ることである。それは、要望したものができたのか、できなかったのか。日ごろの勉強と信頼関係が必要であるとのこと。首長のマニフェストとの相違点や同じ思いの共有点があれば、政策提言として実現可能な成果物は何か、を知ることが第一前提であることもヒントになった。

第2講座は、地方交付税の算定基準や算出される計算式の解説、基準財政需要額の算定、基準財政収入額の算定について実際に決算カードを使いながら行った。予算の根拠や市のスタンスが予算から読み取ることができる。議会は予算のチェック機能と政策提言をしていかなければならない。そのためにも、財政に対する理解を深めることが重要であるが、財政を理解することは本当に難しく、まだまだこれから学んでいかなければならないと、改めて感じた研修でした。

